

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.10	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	裾野市地域向上委員会		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	ロリポップ		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択 →		2. 学生
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	長田梨呂		
メンバー(公開)	菊池遼、加藤綺良、柏木悠利		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

<チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

< 解決したい課題のポイント >

人口減少問題

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

< 提案するアイデアの内容 >

「裾高地域向上委員会」

高校生が裾野市の地域の質の向上を目指し、住みやすさをテーマにしたプロジェクトを企画・運営します。裾野市の暮らしを自分たちで改善・工夫することで、将来的に裾野市に住み続けたいという気持ちを育てます。

公共施設の改修やアップデート提案：高校生が「もっと使いやすい」「居心地が良い」と感じる公共施設を提案し、市と協力して改修かアップデート。（でかい規模のものはクラウドファンディングを通して資金を集めるといい）

たとえば、図書館や公民館のリニューアルプロジェクトに参加し、若者が集まりやすい場所を増やします。

高校生が企画する定住促進キャンペーン：高校生自身が定住促進キャンペーンを企画し、SNS や動画などを使って外部に向けて裾野市の魅力を発信する。高校生が実際に「裾野に住んでこんなに楽しい生活をしている！」といったリアルな声を伝えることで、移住希望者を引きつけます。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

裾野市の人口は約 5 万人で、平均年齢は 44.5 歳となっています。このうち、15 歳未満の人口が 14.6%、生産年齢人口にあたる 15～64 歳が 61.8%、高齢者にあたる 65 歳以上が 23.6%を占めています。人口構成を見ると、高齢化が進んでおり、若年層が減少傾向にあります。さらに、人口減少も進行しており、2015 年から 2020 年にかけて約 3.3%減少しました。この減少率は静岡県全体の減少率を上回るペースであり、人口維持が重要な課題となっています。このような背景を踏まえ、地域の活性化や魅力向上が求められる状況です。

そこで、裾野高校の生徒たちを中心に校内アンケートを実施しました。アンケート結果では、「自然が多い」「三島や沼津へのアクセスが良い」といった裾野市の利点が挙げられた一方で、「町並みが古い」「アピールすべき点が見当たらない」といった課題やネガティブな意見も浮かび上がりました。これらの意見は、裾野市の現状を象徴するものであり、地域の魅力度向上が急務であることを示しています。

このような状況を打開するため、高校生を中心に地域住民や市の行政と協力し、裾野市向上委員会の設立を提案しました。この委員会では、高校生が主体となって地域の課題を発見し、それを解決するためのアイデアを考え、実際の行動に移します。具体的な活動として、公共施設の改修案の提案や地域の魅力を発信するキャンペーンを企画しています。この取り組みを通じて、地域に住む人々の満足度を向上させると同時に、裾野市の魅力を県外へ発信し、新たな移住者を呼び込むことを目指しています。

裾野市は緑豊かな自然環境や交通の利便性といったポテンシャルを持ちながらも、これを十分に活用できていない現状があります。このプロジェクトは、若者ならではの視点で地域を見つめ直し、未来に向けた地域づくりを進める一助となるでしょう。長期的には、高校生が地域社会に参加し、裾野市への愛着と責任感を育むことで、将来にわたり住み続けたいと思える街を形成することを目指しています。このように、裾野市向上委員会は、現代の地域社会が抱える課題に真正面から取り組む、新しい試みとして重要な役割を果たすと考えられます。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大きな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大きな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大きな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

このプロジェクトを実現するのは、裾野市の高校生たちです。市役所や地域の人たち、先生方のサポートを受けながら、自分たちのアイデアを形にしていきます。地域の協力を得られるように、周りの大人ともうまく連携します。

2. 実現に必要な資源

ヒト:プロジェクトを進めるために、高校生だけでなく、地域の大人や市役所のスタッフ、ボランティアの協力も必要です。大人たちはアドバイスをくれたり、手続き面でサポートしてくれたりします。

モノ:図書館や公民館の改修には、家具やデザインに使う資材が必要です。また、SNS 発信用にスマホやカメラ、編集ソフトも活用します。これらの資材は、地元の企業や学校の設備、地域の協賛で集められる可能性があります。

カネ:資金が必要な場合は、クラウドファンディングを使って、裾野市の人たちや裾野市外の支援者からお金を集めます。市の補助金を受けることも考えられます。

3. プロジェクトの進め方とスケジュール

(1) 企画と準備(1～3ヶ月)

まず、委員会メンバーで具体的なアイデアをまとめます。たとえば「図書館をカフェ風にしてみんなが集まりやすくする」などの改修プランや、「裾野での暮らしの楽しさを SNS で発信する」などの計画を話し合います。

(2) 資金集めと宣伝(3～6ヶ月)

実際に動くための資金が必要なら、クラウドファンディングや寄付の呼びかけを始めます。また、裾野市のみんなにプロジェクトを知ってもらうため、ポスターや SNS で発信します。

(3) 実行(6～12ヶ月)

資金や材料がそろったら、いよいよ改修やリニューアルを始めます。実施中は進捗を SNS などで発信して、地域の人たちに協力してもらいます。SNS キャンペーンも同時に開始し、高校生が中心となって裾野市の魅力を発信します。

(4) 振り返りと次のステップ(12ヶ月以降)

プロジェクトが終わったら、みんなで成果を振り返り、良かったところや課題をまとめます。この振り返りは次のプロジェクトに活かします。

4. 手続きやルールの問題があったら？

公共施設を改修するには市の許可が必要ですし、資金集めにはルールがあります。こういった場合は、市役所の人や大人に相談しながら進めます。高校生だからできない部分は、地域の人がサポートしてくれます。